



治療法選択について 透析は選べる時代になりました

透析治療もさまざまな組み合わせができるようになりました。施設透析がいいのか、自宅でできるのがいいのか、透析時間はどのくらいが適当か、透析方法の組み合わせってどうしたらよいの？今回は自分に合わせた最適な治療法を選ぶコツを石田真理先生に解説していただきました。「しっかり知って、じっくり相談し、きめつけない、あきらめない」ためにはどうしたらよいのでしょうか？

東海大学医学部附属八王子病院 腎内分泌代謝内科
石田 真理 先生

知っておこう！腎不全の治療法の選択肢

腎臓が悪いといわれたり、蛋白尿や血尿を指摘されて通院されている方たちだけでなく、だれでも慢性腎臓病になる可能性のある高齢社会においては、末期腎不全に陥った時の治療法を知っておくことは、自分とご家族の健康を守るためにも必要です。また、患者さんご自身にとっても、医師まかせではなく、どのような治療法があるかを知り、積極的な治療への参加は、生命予後さえも良くするという報告もあります。長く通院する期間のあった方は徐々に心の準備や腎機能廃絶に陥った時の治療の必要性について理解する時間があつたかもしれません。しかし、多くの患者さんたちは、できれば透析などを受けたくないと思っており、自分の病状が進行しているとわかっているにもかかわらず、透析療法などについて知ることは怖いと思っていることでしょう。

万が一、腎機能が低下し透析療法の導入が必要といわれた場合にそなえて、正しい知識を持つておくことは、いたづらに透析治療を怖がって導入が遅れてしまい合併症が進行するなどの危険を回避できます。

知っておこう！腎不全の治療法の選択肢

現在は、慢性腎不全の治療法として、①血液透析 ②腹膜透析 ③腎臓移植の3つがありますが、さらに血液透析を自宅でおこなう在宅血液透析や、腹膜透析と血液透析をくみあわせたハイブリッド療法も選択できるようになりました。腹膜透析も、寝ている間に治療をおこなう自動腹膜還流装置を使用することで、日中はほぼ自由に過ごすことができるものもあります。

以前は、血液透析を選んだら、そのまま一生血液透析を継続する治療がほとんどでした。しかし、いろいろな選択肢がふえたことで、治療療養生活も患者さん一人ひとりに、その時々で適した治療法を選択することが可能となっています。たとえば、透析が必要といわれた導入期の尿量がまだある時期は、通院が少なくてすみ仕事を継続できたり自宅で過ごせる時間を多く保てる腹膜透析を導入し、その後尿量の減少とともに透析量が不足してくるようになればハイブリッド治療という週1回の血液透析を腹膜透析6日間に組み合わせておこなう治療を開始し、さらに透析量が足りなくなったならば、血液透析週3回へ変更して腹膜透析を終了するということが選択できるようにな

一人ひとりに合わせ
その時々で適した
治療を選択できます



血液透析

施設透析 週3回4時間～5時間、夜間透析など
在宅血液透析

変更可能

ハイブリッド透析：腹膜透析と血液透析を組み合わせおこなう

腹膜透析

CAPD：日中に数回、透析液を交換
APD：夜間、寝ているあいだに自動的に透析液を交換

腎移植

献腎移植：移植ネットワークに登録
生体腎移植：親族からの腎臓の提供が必要

りました。つまり、残存腎機能の程度に合わせて、透析方法や透析量を変化させてゆく治療法です。あるいは、導入の最初に血液透析を開始したとしても、年齢や家庭環境の変化で通院が難しい場合やシャントがうまく維持できない場合など、腹膜透析に変更することも可能です。もしくは、介助者がいれば在宅で血液透析をおこなう、在宅血液透析を選択することもできます。これらの治療は日本では保険で認められた治療法です

腎移植についても、移植ネットワークに登録して毎年更新を継続しておく、献腎移植ができる可能性があります。

透析が必要といわれ、導入病院で治療法を選択したら、それで終了ということではなく、自分のライフスタイルの変化や体調の変化にあわせて、最良の治療法を選択しなおすことができる時代です。最初に決めた治療法が人生のファイナルアンサーというわけではありません。自分に合わなければ、また違う方法を選べばよいのです。

シェアード デシジョンメイキング (Shared Decision Making) ということ

世界においても、いろいろな疾患で治療法を選択しなければならないときに、一方的に医師がこの治療と予後について説明して患者さんが同意するのではなく、その患者さんの人生の考え方や家庭環境などの背景因子について十分に話し合い、お互いの同意のうえで治療法を選択する、選択の方法をシェアードデシジョンメイキングと呼びます。日本語で的確な翻訳がないのですが、意思決定の共有といったところでしょうか。治療法の選択に患者さんも参加して治療に前向きになるということは、人生を前向きに生きることにつながります。

決めつけない、あきらめない

この言葉は、私が日ごろから患者さんに接するときに思っていることです。治療法を選択していく中で、患者さんの性格や能力を一方的に決めつけて、治療法の選択を医療者側から狭めてしまわないように、気をつけています。ぜひ患者さんの側からも、自分の病気の治療について、できないと決めつけたり、無理だとあきらめないでください。

いろいろな患者さんがいます。一人ひとりが違う原因で違う速度で腎臓の機能が低下しています。療法も隣の人とみな同じであるはずがありません。

困ったり悩んだときは、一人で治療法について悩まず、ぜひ医師をはじめとした医療スタッフと悩みを分かち合って（シェア Share）ください。きっと、力になってくれるはずです。